

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授	吉 水 清 孝	3	水	3
◆ 講義題目	ヴェーダから叙事詩へ					
◆ 到達目標	ヴェーダ時代から西暦紀元前後までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、古代聖典ヴェーダの宗教と仏教などの出家宗教との対比を軸にして理解すること					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヴェーダ、仏教、スムリテヒ(叙事詩・法典)の3分野を中心に、古代インドの世界観と人生観の変遷を以下の順序で解説する。01 序; 02 インダス文明とアーリア人侵入; 03 ヴェーダ文献と神話; 04 ヴェーダ祭式; 05 祭式をめぐる思弁; 06 ウパニシャッド(祭式の内面化); 07 ウパニシャッド(因果応報思想の成立); 08 ジャイナ教と仏教の開祖; 09 仏教の戒律; 10 仏教教団と古代王朝; 11 アビダルマと大乘仏教; 12 二大叙事詩; 13 叙事詩の思想; 14-15 インドの法典</p>					
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [70%]・(○) 出席 [30%]					
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと、参考書は授業中に指示する。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授	吉 水 清 孝	4	水	3
◆ 講義題目	インド哲学とヒンドゥー教					
◆ 到達目標	西暦紀元後からイスラーム教徒による北インド支配までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、バラモン教学・仏教哲学・ヒンドゥー教の三つを軸にして理解すること。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>初期中世インドに成立した各学派における存在と認識、および倫理と宗教の面での中心思想を、学派相互の影響関係と共に以下の順序で解説する。01 古代思想の要約, 02 時代背景の変遷：古代から中世へ, 03 バラモン教学 (1)：二元論(サーンクヤ)と瞑想(ヨーガ), 04 バラモン教学 (2)：語の意味と文の認識(文法学・ミーマーンサー), 05 バラモン教学 (3)：聖典論と社会意識(ミーマーンサー・法典註釈), 06 バラモン教学 (4)：ウパニシャッド解釈学と一元論(ヴェーダーンタ), 07 仏教の僧院と国際交流, 08 仏教知識論 (1)：認識論と論理学の基礎, 09 仏教知識論 (2)：論理学の応用, 10 仏教思想とバラモン教学との対立; 11 ヒンドゥー教 (1)：ヴィシュヌ神とその化身, 12 ヒンドゥー教 (2)：シヴァ神と女神たち, 13 ヒンドゥー教 (3)：ヴィシュヌ教の神学, 14-15 ヒンドゥー教 (4)：シヴァ教の神学。</p>					
◇ 成績評価の方法	(○) リポート [70%]・(○) 出席 [30%]					
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと、参考書は授業中に指示する。					
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
パ ー リ 語	2	非常勤 講師	西 村 直 子	3	月	5
<p>◆ 講義題目 パーリ語入門</p> <p>◆ 到達目標 サンスクリットの知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的変化に注目しながら、基本事項を学ぶ。Geiger, A Pāli Grammar を参考にする。その後、Anderson, A Pāli Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。</p>						
<p>◇ 成績評価の方法 授業時間中に示される能力と取り組み方による。平常点（60%）および試験（40%）</p> <p>◇ 教科書・参考書 Geiger - Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader（大学に必要部数が揃っているが、自分で持っていて後まで役立つ）。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する</p>						
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
パ ー リ 語	2	非常勤 講師	西 村 直 子	4	月	5
<p>◆ 講義題目 パーリ語講読</p> <p>◆ 到達目標 前期に習得した能力を基に、比較的明晰な原典を選び購読する。あわせて仏教文献に馴染む訓練をする。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 文法事項、シンタクス、仏教用語などについて、繰り返し復習確認しながら、Anderson の Reader から抜粋して読む。ジャータカ、ダンマパダ、ミリンダバンハーなど、言語と内容の両面を大切にしながら取り組む。</p>						
<p>◇ 成績評価の方法 授業時間中に示される能力と取り組み方による。平常点（60%）および試験（40%）</p> <p>◇ 教科書・参考書 Geiger - Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader（大学に必要部数が揃っているが、自分で持っていて後まで役立つ）。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する</p>						
その他：						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
チ ベ ッ ト 語	2	教授	桜 井 宗 信	3	火	4
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法Ⅰ</p> <p>◆ 到達目標 (1) チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。 (2) 古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのように訳せるのかを自ら吟味することで、解釈力の養成を計る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70 %] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30 %]</p> <p>◇ 教科書・参考書 藤田光寛：『古典チベット語文法』(非売品；インド学研究室に備え付けがある)</p> <p>その他：教科書は研究室備え付けのものを各自コピーし、講義に臨むこと。また、サンスクリット語初級文法の既習者であることが望ましい。</p>						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
チ ベ ッ ト 語	2	教授	桜 井 宗 信	4	火	4
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法Ⅱ</p> <p>◆ 到達目標 古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット人学僧 Taranātha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。第15章冒頭から読み始める予定。 「歯応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた十分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70 %] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30 %]</p> <p>◇ 教科書・参考書 Taranātha：『インド仏教史』(コピーを配布する)</p> <p>その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。</p>						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 基 礎 演 習	2	教授	吉 水 清 孝	3	水	5
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献入門					
◆ 到達目標	ヒンドゥー教における安心立命の考え方を理解するために、代表的ヒンドゥー教聖典を読み、サンスクリット語の語形活用と構文に習熟する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Bhagavadgītā (『神の歌』) は、マハーバーラタ大戦争に臨んで悩める王子アルジュナにヴィシュヌ神の化身クリシュナが教示する対話篇であり、現代においても危難に際して安心立命を得るために復唱される、ヒンドゥー教の代表的聖典である。今学期はその第1章から第2章までを講読する予定である。毎回出席者にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。第1回：Bhagavadgītā の成立；第2回：I, vv.1-11 両軍の英雄たち；第3回：I, vv.12-19 開戦；第4回：I, vv.20-27 アルジュナ；第5回：I, vv.28-37 親族殺害の罪；第6回：I, vv.38-47 罪の報い；第7回：II, vv.1-8 アルジュナの苦悩；第8回：II, vv.9-15 クリシュナの教え；第9回：II, vv.16-30 精神の不滅；第10回：II, vv.31-38 自己の義務；第11回：II, vv.39-46 実践的認識；第12回：II, vv.47-53 行為遂行の自己目的；第13回：II, vv. 54-63 感官が乱された者；第14回：II, vv.64-72 智恵が確立した者；第15回：Bhagavadgītā 第1- 第2章のまとめ。</p>					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) 出席 [30%] ・ (○) リポート [70%サンスクリット語未修者対象] ・ (○) その他 (授業での貢献度) [70%サンスクリット語既習者対象]					
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。上村勝彦 (訳) 『バガヴァッド・ギーター』 (岩波文庫) を各自で用意すること。					
その他：サンスクリット語の基礎を習得していることが望ましいが、サンスクリット未修者でも十分に理解できる授業を行う。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	教授	吉 水 清 孝	5	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読 (1)					
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>『マハーバーラタ』は、王家の争いに端を発する大戦争を描き、そのなかに社会倫理と宗教の全体にわたる教説を盛り込んだ世界最大の大叙事詩である。今学期は、昨年度に引き続き、第10巻「夜襲の巻」中盤を講読する。ここでは、夜襲を終えたアシュヴァッターマンが瀕死の百王子長兄ドゥルヨーダナのもとに還り戦果を報告し、ドゥルヨーダナが彼を祝福して息を引き取る。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ (○) 出席 [30%] ・ (○) その他 (授業での貢献度) [70%]					
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)					
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	教授	吉 水 清 孝	6	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読 (2)					
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>前学期に引き続き、『マハーバーラタ』第10巻「夜襲の巻」中盤を講読する。ここでは、ここでは、五王子長兄ユディシュティラと妻ドラウパディーとが、陣地に戻り、その惨状を目にして悲嘆に暮れる。この場面は、現代にまで通じる戦争の悲惨を的確に描いている。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。</p>					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]					
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。					
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	非常勤 講師	藤 井 正 人	集 中 (6)		
◆ 講義題目	サーマヴェーダと最初期ウパニシャッド					
◆ 到達目標	古代インドの正統派祭式文献であるヴェーダは、祭官の職務に応じて四種に分かれて編纂・伝承されている。そのうち、祭場で歌われる歌詠（サーマン）を集めたものがサーマヴェーダである。サーマヴェーダの中心文献であるサンヒター（歌詞集と歌曲集）、ブラーフマナ、ウパニシャッドを取り上げ、ヴェーダ祭式歌詠の特徴とその変遷、およびそれらが最古のウパニシャッドの成立の背景となった思想史上の意義について考察する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>サーマヴェーダには、多くの伝承地域をもつ有力学派であるカウトゥマ派（姉妹学派のラーナーヤニーヤ派を含む）と、南インドのタミル・ナドゥとケーララの2州のみに存続する希少学派であるジャイミニヤ派の二学派が現存している。授業では、まず両学派のサーマヴェーダ諸文献の構成・内容・研究の現状を概観した上で、特にサンヒターとブラーフマナについて両学派の特徴と差異とを考察する。さらに、ブラーフマナおよびウパニシャッドから具体的なサーマンを扱っている箇所を選んで読解して、ヴェーダ祭式歌詠の歴史的な変化をたどるとともに、それと最初期のウパニシャッドの成立との関係を考察する。本授業は文献としてのサーマヴェーダを中心に切り上げるが、インドに現存するサーマヴェーダ歌詠伝承の実態についても現地調査に基づいて解説する。</p>					
◇ 成績評価の方法	出席とレポート					
◇ 教科書・参考書	教科書は使用しない。教材を授業で配布する。					
その他：サンスクリット基礎文法を習得しているか学習中であることが望ましいが、サンスクリット未修者でも十分に理解できる授業を行う予定である。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授	桜 井 宗 信	5	水	2
◆ 講義題目	チベット密教文献研究 (1)					
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。					
◆ 授業内容・目的・方法	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・() リポート [%]・(○) 出席 [70 %] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30 %]					
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37					
その他:「古典チベット語文法の既習者であること」を履修要件とする。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授	桜 井 宗 信	6	水	2
◆ 講義題目	チベット密教文献研究 (2)					
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。					
◆ 授業内容・目的・方法	前セメスターに引き続き bSod nams rtse mo の『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・() リポート [%]・(○) 出席 [70 %] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30 %]					
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp.1-37					
その他:「古典チベット語文法の既習者であること」を履修要件とする。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 吉水清孝	5	木	2
◆ 講義題目	インド哲学文献研究 (1)				
◆ 到達目標	インドの哲学思想の根本にある古代宗教書ヴェーダは祭式文献であるので、ヴェーダ祭式儀礼の概要を理解するとともに、古典サンスクリット語のもとにあるヴェーダ語の特質をも習得すること。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>昨年逝去した Frits Staal の大著 Agni 第 1 巻は、1975年に開催された大規模ヴェーダ祭式 Agnicayana (祭火壇設置祭) の詳細な記録である。本年度はソーマ祭中心部分の概要を理解するために、本書に収められた Agnicayana 祭終盤、最終日前日の午前から午後にかけてのソーマ献供儀礼と讃歌朗唱儀礼の部分を講読し、合わせてそこに引用された、Rgveda や Taittiriyasamhitā などのマントラ部分をも解読する。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 吉水清孝	6	木	2
◆ 講義題目	インド哲学文献研究 (2)				
◆ 到達目標	インドの哲学思想の根本にある古代宗教書ヴェーダは祭式文献であるので、ヴェーダ祭式儀礼の概要を理解するとともに、古典サンスクリット語のもとにあるヴェーダ語の特質をも習得すること。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>前期に引き続き、ソーマ祭中心部分の概要を理解するために、Frits Staal の大著 Agni 第 1 巻に収められた Agnicayana (祭火壇設置祭) 実演記録のうち、最終日前日の夕刻から最終日早朝にかけてのソーマ献供儀礼と讃歌朗唱儀礼の部分を講読し、合わせてそこに引用された、Rgveda や Taittiriyasamhitā などのマントラ部分をも解読する。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]				
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	5	火	3
◆ 講義題目	梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読 (1)				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70 %] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30 %]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：Abhidharmakośabhāṣya, ed.by P.Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎釈論』(真諦訳)。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	6	火	3
◆ 講義題目	梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読 (2)				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70 %] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30 %]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：Abhidharmakośabhāṣya, ed.by P.Pradhan, Patna, 1967. ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎釈論』(真諦訳)。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					